

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・法令基準を上回る広さの活動スペースを確保し、子どもたちがゆとりを持って活動できる空間を設計。死角を排除した安全性の高いレイアウトと、定員に応じたスペースを確保しています。 ・死角が少なく見通しも良い ・必要以上の物を置かず訓練スペースの確保を行っています。 	
	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の活動時間帯においては、個別のニーズに応じた計画的な職員配置により、適切なサポート体制を構築できています。法令上の最低基準は満たしています。 ・利用定員や子どもの状態を踏まえ、基本的な職員配置は確保は行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時間帯に職員配置が手薄になることで、安全確保と事業所内の支援維持に課題が生じています。次年度は、送迎専任スタッフの雇用検討、または送迎ルートと時間の効率化を図り、サービス提供時間全体で適切な人員配置を徹底する必要があります。 ・未就学児が多い時間帯は、もう一人職員がいればなお良し。
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援を意識した見通しの良い構造化を実施。クールダウンや個別支援が必要な際に簡易パーティションで柔軟かつ即座に対応できる環境を整備し、子どもたちの特性に配慮しています。 ・子どもが安心して過ごせるよう、生活空間は分かりやすく構造化しており、活動の切り替えがしやすいように訓練スペースの確保を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に段差があるため、必要に応じて介助対応を行っています。 また、聴覚情報に頼りがちな伝達方法を改善するため、視覚的な情報伝達ツール（例：タイマーやスケジュール表のデジタル表示）の導入を検討する。 ・玄関は段差があるため、バリアフリーではない。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> モップ付きのロボット掃除機を活用し毎日清潔に保っています。整理整頓と定期的な換気を行い、こども達が安心して活動できる環境を整えています。 毎日、整理整頓を意識している 定期的な清掃・換気を行い、清潔で快適な生活空間の維持に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策として空気清浄機の性能向上や紫外線殺菌装置の導入など、次世代の衛生管理システムの検討を始める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 動かせるパーテーションを活用した個別スペースを柔軟に設けることで、感情の調整やクールダウン、集中を要する活動など、子どもの状態に応じた環境を即座に提供できる体制を整えています。 クールダウンをするための場所を間仕切りで設けている 子どもの状態や気持ちに応じて、個別の空間に出来るようにパーテーションを活用し、落ち着いて過ごせるように心がけています 	<ul style="list-style-type: none"> 使用中に他の児童も行き来でてしまうのがよくない
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 全職員が建設的な意見を提出できる場を定期的に設定し、PDCAサイクルに能動的に参画させています。プロセスのデジタル化により、目標設定と振り返りの内容を全職員が迅速に共有できるようにしています。 情報共有をしっかり務めています。 日々の支援の振り返りを共有出来るようGoogleカレンダーを活用し職員が業務改善につなげれるように心がけています。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTツール導入効果最大化のため、全職員に対し、ツールの必要性、目的、操作に関する統一的な教育プログラムを策定・実施し、習熟度を統一基準まで引き上げる必要がある。 保育に関しては、一人の職員への負担が大きい

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 保護者からのフィードバックを支援計画の検証や事業運営の改善に反映させる具体的なプロセスを構築。評価結果は透明性確保のためホームページで公表しています。 HPから簡単に回答できるようにしている。 保護者のご意見を大切にし、評価表を通していただいたご意見を日々の支援や業務の改善に役立てています。 	<ul style="list-style-type: none"> 回答率を向上させるため、評価表のオンライン化や、アプリでの通知など、回答負担を軽減し提出機会を増やす改善を検討する。 周知しているが、100パーセント中々そろわない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを重視し、定期的な会議以外でも、職員がいつでも率直な意見や相談ができる環境を整備。現場の声が迅速に業務改善へ繋がる仕組みが機能しています。 いつでも相談はしやすい。 自己評価等で職員の意見を把握する機会は設けています。 	<ul style="list-style-type: none"> 匿名での意見箱（デジタル含む）を設け、より心理的安全性の高い形で、現場の細かな課題や改善提案を収集できる仕組みを導入を検討中。 話を聞くだけで、意見を反映してもらえないこともある。 業務改善への反映については活用方法にバラつきがあり十分とは言えない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	33%	67%	<ul style="list-style-type: none"> 現状、第三者による評価は実施していません。 現時点では第三者による外部評価は行っていません。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの客観的な質の向上と社会的な透明性を高めるため、次年度での第三者評価の導入・実施に向けた**具体的な準備（予算確保、機関選定など）**を最優先で進める必要があります。 今後の業務改善に向け、外部評価の必要性は認識しております。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニング、動画研修に加え、実践的なスキルアップに特化したオリジナル研修を開発・実施。テスト形式を取り入れ、単なる受講に留まらない確実な知識定着を促し、支援の質の維持・向上を図っています。 ・また研修後の報告で終わりではなくAIによる分析レポートをフィードバックし全体で共有しています。 ・定期的にしっかりと研修を行っている。 ・定期的に独自のe-ラーニングを活用し研修、理解度チェックを徹底しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を最新の専門的知見に基づき定期的に更新するとともに、テスト結果の採点方式を標準化し、職員の習熟度を可視化することで、資質向上への意欲を高める必要があり、研修受講後に現場での実践報告会を義務付け、知識を実践へ繋げるためのフィードバックシステムを構築する。 ・施設外での交流研修なども必要だと感じている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムを視覚的に分かりやすい資料として作成し、ホームページで公表。これにより、家庭と事業所間での支援方針に関する共通認識を図り透明性を確保しています。 ・保護者の話をしっかりと聞き、プログラムに反映させている。 ・ホームページに公表を行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムが実際に子どもの成長にどれだけ貢献したかを、年度末にデータ（アセスメント結果等）を用いて分析し、プログラム内容を検証・改善するプロセスを確立する必要がある。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・多角的なアセスメントに基づき、子どもの特性や保護者の希望を深く分析。職員全員参加の会議を経て、それらを実行性の高い個別支援計画に確実に反映するプロセスを徹底しています。 ・職員全体からの感じたことも反映させている。 ・子ども一人ひとりの状況を適切にアセスメントし、本人および保護者のニーズを踏まえた上で、児童発達支援計画を作成しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の支援経過と目標達成状況を職員の脳内メモリのバラつきをデジタルシステムで瞬時に参照できるよう、記録管理システムの構築を進める必要がある。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
13		児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 児発管を中心としつつ、全職員が専門性を活かした視点から意見交換を実施。 子どもの最善の利益を最優先に考慮した実行性の高いチーム支援計画を作成しています。 職員間の情報共有も反映させている。 計画を作成する為の支援計画作成会議の場を設け、支援計画作成を行っています。 	
14		児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 支援計画をデジタルツールで可視化し、全職員がいつでもアクセス・確認できる共有体制を構築。これにより計画内容に基づいた一貫性のある支援を可能にしています。 児童発達支援計画は職員間で共有し、概ね計画に沿った支援が行われていますがより統一した支援が行えるよう、継続的な確認が必要ではあります。 	
15		子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 標準化されたフォーマルアセスメントを定期的に実施し、客観的なデータに基づいた検証を行っています。 日々のインフォーマルな行動観察と統合し、子どもの発達状況を正確に把握し、支援の改善に繋げています。 標準化されたツールによるアセスメントおよび日常的な行動観察を通して、子どもの適応行動の状況を把握しております。 	・子どもの成長の可視化と家庭との目標共有の質の向上を図る。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

適切な支援の提供	チェック項目	はい 100%	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
				・ガイドラインをしっかりと取り入れた計画になっていて、本人支援だけでなく、家族や地域との連携にも配慮した支援に取組んでいます。多方面からの支援を行えるよう目標設定しております ・個別支援計画に上記の支援内容を踏まえおります。	・具体的なアウトカム（成果）指標を設定し、年度末に達成度を客観的に評価する仕組みを導入する必要がある。
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・子どもたちに合った活動内容になっています。チームワークを活かした計画作りを心掛けています。 ・職員間での話し合いや情報共有を通してチームで行っており、子どもの発達状況や支援目標を踏まえた内容となるよう検討しております。	・各職員の専門性（例：保育士、療法士など）を活かした視点がプログラムに明確に反映されているかを確認するためのチェックリストやプロセスを導入する必要がある。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・季節のイベントや子どもたちの成長に応じて、活動内容を工夫しています。定期的なローテーションになるように心がけています。 ・季節にちなんだ内容も取り入れている ・季節行事等を取り入れながら活動内容を検討し固定化しないように工夫しております。	・定期的なローテーションを維持しつつ、人気のイベントを構成要素として分解し、他の活動に組み込むことで、プログラムの固定化を防ぎ、バラエティ豊かにする。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・個々の特性を考慮しながら、個別活動と集団活動のバランスを調整しています。子どもの様子を職員間、その日のうちに共有しています。 ・集団遊びがしたいと子どもたちから意見が出る環境作りをしている ・個別活動および集団活動は実施しているものの全員参加とまでは至っていない。	・計画とモニタリングのバランスが適切かを客観的に検証する必要がある。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 支援の内容や役割分担を明確にし連携がスムーズに行えています。 直接的ではなくても、漏れの内容にグーグルカレンダーを見て共有認識できるようにしている 午前中に行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せ内容をテンプレート化しデータベース化することで全文検索できようにし効率よく過去資料を閲覧を実現してほしい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> デジタル情報共有を活用することで情報共有にがスムーズです。 支援終了後に職員間で振り返りを行っているが記録方法や共有の仕方について、さらに充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員によりデジタルツールの理解度に差があり、部分的に口頭に頼ってしまっている状況があり漏れの原因を解決したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 職員同士で過去の記録を参考にしながら支援方法を工夫できる仕組みになっています。 Googleカレンダーを活用しながら日々の支援について記録を取ることを徹底しており、子どもの様子や支援内容を振り返りながら、支援の検証および改善につなげております。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援記録を特定のキーワードや目標別に検索・抽出できるようにデジタル化を推進し、「検証・改善」のプロセスを効率化することで時短とタイムパフォーマンスを実現したい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 成長や状況の変化に応じた支援を提供しており保護者との話し合いも丁寧に行われ安心して相談できる環境が整っています。定期的に面談を行っております。 定期的にモニタリングを実施し、子どもの発達状況や支援の実施状況を確認した上で、計画の見直しをしております。 	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 支援内容の説明や意見交換がスムーズに行えています。 状況や特性を十分に理解している職員が参画しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録を分析し集約できるようAIの活用を実現したい。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

関係機関や保護者との連携	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉・教育機関と多角的な連携が取れているので、子どもに必要な支援が一貫して提供できています。地域との交流を積極的に行っております。 ・関係機関との連携体制は整えているが、情報共有の頻度や方法について、さらなる充実を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の機会と勤務時間との調整が課題で検討しています。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所等にもパンフレットを持っていき、交流を深め、支援に対する情報も共有させてもらっています。 ・送迎時に引継ぎ等を行いご家族の許可を得た上で情報共有を行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出張研修・勉強会を企画・実施し相互理解の質を深める。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前に学校との情報共有が行われてい、新しい環境にスムーズに適応できるよう配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援のための詳細な「引き継ぎシート」を策定し、学校との間で情報共有を標準化することで、支援の継続性を担保する。 ・移行支援を行った児童は現状該当いたしません。
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	67%	33%	・関係機関との連携を行う機会は設けており、支援を継続的に改善できる仕組みを作っています。	・児童発達支援センターとの連携は一部行っているものの、スーパーバイズや助言を受ける機会が十分とは言えません。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		・地域の子どもたちと交流できるイベントを定期的に開催し、地域とのかかわりの機会を提供し、採取したカブトムシを配ったりています。 ・イベントに来て頂けるよう案内を出しています。 ・月1回の土曜日のイベントを地域の方も参加型にしております。	
33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・密な連携を保護者と取り、子どもの成長や課題について常に情報を共有しています。 ・日頃から送迎時や連絡帳、面談等を通して子どもの様子を保護者と伝えております。	・家庭の事情などにより密な連携に偏りがあり、時間、方法を検討する必要がある。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	67%	33%	・選定した知育アプリの情報提供を行い施設、家庭での共同支援に繋げています。	・プログラムの効果を測定するフォローアップ調査を導入する。 ・家族に対する情報提供は一部行っているものの、家族支援プログラムや研修機会の提供が十分とは言えない為、今後体制整備を行います。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約書、重要事項説明書に関しては動画をホームページに公開しいつでもご覧いただけるようにしています。 ・いつでもユーチューブから動画を見て説明を聞くことができる ・運営規程、支援プログラム、利用者負担等について、契約時に説明を行い利用者および保護者の理解が得られるよう努めています。またyoutubeでも公開しております。	・説明の質の担保と理解度を確実な把握を行う必要がある。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の意見を丁寧に聞くことを大切にしています。 ・面談等を通してこどもや家族の意向を確認する機会を設けております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を尊重するために、意思を表明しやすいツールを用意する必要がある。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を一方的に説明するのではなく保護者の方と相談しながら作成し、同意を得た上で署名をいただいています。 ・「児童発達支援計画」を保護者に提示し内容への理解を得た上で、同意を得ております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語を避けた分かりやすい表現を多用する。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が安心して相談できるよう、定期面談以外でも「いつでも相談できる」環境を作っています。 ・いつでも話ができるような対応をしています。 ・定期的に家族等からの子育てに関する悩みや相談に応じ、面談等を通して状況を把握しながら、必要な助言や支援を行っております。 	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加型のイベント、行事を実施し保護者間の交流も行えるよう工夫しています。 ・父母会は設けていませんが、イベント内での交流をしています。兄弟での交流は全家庭行っています。 ・イベント時に行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような企画を定例化する必要がある。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にし、迅速かつ適切に対応しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談・申入れへの対応体制は整えているが、周知方法や対応記録の整理について、さらなる充実が必要である。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 定期的にお知らせ発信し、HPやSNSも積極的に活用することで、最新の情報を保護者により身近に感じてもらえるよう工夫しています。 インスタグラムを中心に活動報告をして周知しています。 定期的にホームページやSNS等を活用し、活動概要や行事予定を発信しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信について保護者が最も知りたい情報の満足度をアンケートで測定し、発信内容の質を向上させる。 SNSを一切されていない保護者には、口頭での対応にさせてもらっています。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理には細心の注意を払い、適切な方法で取り扱うよう徹底しています。 個人情報の取扱いについて規程を定め、職員への周知・研修を行うとともに、情報の管理方法や取扱いに十分留意しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 今あるeラーニングに個人情報保護に関する定期的な研修、小テストを実施し、法令遵守意識の維持・向上を図る。
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な支援ツールを活用したり、個々の理解しやすい方法で情報を伝えるよう工夫しています。 意思の疎通や情報伝達について配慮は行っているが、より分かりやすい伝え方や支援手段の工夫について、継続的な検討が必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要な情報（緊急連絡先、行事予定など）について簡易な多言語表記の準備を検討する。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを大切にし、イベントや活動に地域の方々を招待することで、インクルーシブな環境づくりに取り組んでいます。 地域に開かれた事業運営を意識した取組は行っているが、地域住民との交流機会の拡充について、さらなる工夫が必要あります。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア・サポーター制度を導入し、より深い地域連携が課題です。

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルを整備し、ホームページ上で公開し透明性を確保しつつ、職員も閲覧しやすくしています。 想定した訓練を定期的に実施し、対応力の向上に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオを多様化して実施し、複合的な事態への対応力を高める必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> BCPを整備し年間計画に基づき定期的に訓練を行ってい、訓練内容、記録をホームページ上で公開しています。 想定した訓練を定期的に実施し、対応力の向上に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> より実践的な訓練を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 事前に子どもの健康状態を把握し必要な情報を確実に把握しています。 見学時、契約時に確認しております。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の情報共有の確実性を高める必要がある。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 現状は対象児童がおりません。 該当なし 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童の有無に関わらず、食物アレルギー対応のための疑似訓練と情報共有を徹底する必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 安全計画を策定し、職員に対して毎月点検を行い、結果をホームページ上で公開しています。 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じております。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット報告からの改善措置が安全計画に具体的に反映されているいないので改善の余地がある。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 安全計画の内容はホームページ上で公開し、お知らせ配信しています。 ホームページにて公開しております。 	

【公表】児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	はぐくみプラス
------	---------

集計期間：2025/12/16～2025/12/19

公表日：2025年12月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で共有し、再発防止策を検討しています。 ヒヤリハット事例を事業所内で共有し、職員間で再発防止に向けた方策について検討を行い、支援や安全管理の改善につなげております。 	<ul style="list-style-type: none"> より客観的かつ予防的な再発防止策を立案する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 第三者委員会を設置し第三者参加の元で委員会を開催し、指針、議事録をホームページにて公開しています。また、職員のストレスチェックを毎日実施し分析しています。 職員に対する研修機会を確保するとともに、虐待防止に関する理解の向上と適切な対応が行える体制を整えております。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見のための具体的なチェックリストの作成
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 職員には定期的な研修を行い、職員一人一人が適切に対応できるよう教育と訓練を徹底しています。 	<ul style="list-style-type: none"> やむを得ない状況を回避するための具体的な支援方法の習得に焦点を当てる必要がある。